

Vories
cure&care

病院ホームページアドレス
<http://www.vories.or.jp/>



ヴォーリス
だより

2014年(平成26年)3月1日 第81号

発行 毎月 1日
発行者
ヴォーリス記念病院
周 防 正 史
近江八幡市北之庄町492
TEL (0748) 32-5211
印刷
(有)東呉竹堂(ひがし印刷)

グローバル・ジャングル化する経済社会で生き残るために ～キリスト教精神のエッセンス～

事務長 澤 谷 久 枝



2月2日は、近江兄弟社の創立記念日としています。2月1日に109回目の記念式典が挙行され、今年は、ヴォーリス師没後50年を記念して、同志社大学大学院教授の浜矩子氏をお迎えし、「未来につながるキリスト教精神」と題してご講演を賜りました。

私自身、大変感銘を受けましたので、この紙面をお借りして書き記したいと思います。昨今、グローバル・ジャングル化という言葉を目にしますが、ひとことで言えば、「地球規模の大競争時代」における経済の姿で、大航海時代や産業革命は、地平線が遠く広がっていくグローバル化の時代であったのに変わって、インターネット時代は、情報伝達スピードの速さが高まることによって、地平線がどんどん人々の前に迫ってくるかたちのグローバル化です。広がるグローバル化の時代は、新大陸が発見されたりして、人々の活動範囲が広がり、パイが大きくなり余裕が生まれるが、それに対して地球が狭くなる展開では、パイの奪い合いは激化します。そこにIT化による高速化が加われば、食うか食われるかの競争はますます熾烈化するジャングルの様な様相を強めると言われます。もともと経済活動は、人間らしい活動であるはずが、人間のためのグローバル精神はどこへいったのか。人を人と思わない、人権を踏みにじるブラック企業を許してはいけません。グローバル時代を生き抜くには、「共生」と「淘汰」の二人三脚が必要であると先生は語られます。私たちは、小なるものに支えられて生きている。しかし、ともに支え合う「共生」だけでは生きていけない。競争によって強いものが生き残り、弱いものが死んでいく、誰もが持っている自己展開力による「淘汰」と上手く絡まることが大切です。グローバル・ジャングル経済は、物理的にも精神的にも極めて重いプレッシャーがかかってきます。それだけに「競い合う」ライバルだけでなく、「助け合う」同士をつくることが、ある種、生きていくうえでの智慧だと感じました。

キリスト教精神から学ぶとすれば、①“思い惑うことなかれ”新約聖書マタイによる福音書。これは、今日何を食べようか、飲もうか、何を着ようか、思い悩むな、生きるに大切なものは全て与えられている。

②“慈しみとまことは巡り会い、正義と平和は抱き合う。”旧約聖書詩篇。
正義を貫くものだけでは、平和を築くのは難しい。とエッセンスを頂きました。

『神の国』建設のために生涯を捧げられたヴォーリス師の志を受け継ぐ近江兄弟社の一員として、与えられた業をそれぞれの場所で成していきたいと新たな決意を抱いたひとときでした。感謝致します。

☆インフルエンザを予防するために☆

1. 予防注射をしましょう。
2. うがい・手洗いはこまめに。
3. 外出するときは、マスクを着用しましょう。

院内感染対策委員会

今
月
の
聖
句

正しい人は互いに受け入れる。

旧約聖書 箴言 14章9節



チャプレン 安 部 勉

まもなく東日本大震災から3年を迎えます。

多くの方が家族、ふるさと、仕事、財産そして「希望」を失ったことを思います。そして多くの方々が苦しみや悲しみに直面した方々を「支えたい」「助けたい」との思いに幾度となく足を運び、様々な「奉仕」をされています。

「こころのケアボランティアお断り」

「こころのケア」をしたいと願い、避難所に足を運ばれたボランティアの方がこのような張り紙にあるよう断られることがあったと知りました。

一人ひとりの大切な「何か」を失った悲しみや辛さを和らげたいと願い、学びを重ね「わたしにもできる」との思いをもって赴いたボランティアの皆さんにとって、この張り紙は警鐘になったと思います。

あの震災や原発事故を経験した方すべて「自らの辛い経験や悲しみや怒りを聞いてもらいたい」と思っていることでしょう。でも「誰でもいい」とは思えません。プロのカウンセラーに、ということでもありません。

では、言葉に言い表すことさえできない苦しみ

を抱いている中にあって「心開く」には何が求められるのでしょうか。

「聞くでもなく、語るでもなく」

「聞いてあげる」との思いが強ければ心閉ざします。自分の体験を話しても「共感」は得られません。

「聞いてもらいたい」

そう思うに至るには人と人との計り知れない「間」が必要です。そのためには自らが傷つき、悲しみを負い、苦しみを負い、無力感に苛まれた経験を経て、はじめて伝わる「間」があるように感じます。

「互いに受け入れる」。

それが人間として「正しい」と読める聖書の格言。

人と人との出会いは「クライアント」とか「患者」のように一方と他方の立場が違うのではなく「共に悲しむ者」「共に苦しむ者」「共に支えを必要とする者」「共に癒しを求める者」と思えた時「互いに受け入れる」ことができるのかもしれない。

力強い言葉、耳障りのいい言葉は「受け入れる」力を生みません。弱さを感じ、いたわる思いこそ「受け入れる」力となるのです。

リハビリ体操シリーズ第6弾

これまで上半身、下半身の簡単な体操を紹介してきましたが、今期の最終号は椅子で出来る簡単なストレッチをご紹介します。ストレッチをすることで緊張した筋肉を緩めて血行を促進し、体のリラックス効果が期待できます。反動をつけずに20秒～30秒ゆっくり伸ばします。呼吸も止めずに行なってみてください。

太ももウラ



地面にかかとを立てて足を伸ばす。



かかとを立てたまま、膝を曲げないように前屈する。

おしりの横



膝上に曲げた方のくるぶしを乗せる。



前屈する。
*写真では乗せている右脚の臀部が伸びている。

腰背部



背筋を伸ばす。
背もたれには寄りかからない。



体を後ろへねじる。
背もたれを持ちながらねじると良く伸びます。

*運動を止められている方は主治医に相談してから行なってください。



ヘルシークッキング 3月

ぼた餅 〈1個分〉

エネルギー 121kcal タンパク質 6.4g 脂質 0.6g (1人分)



＜材料－6個分＞

- ・もち米 1.5合
- ・水 270ml
- ・塩 少々
- ・粒あん 300g

＜作り方＞

- ①もち米は洗ってザルに上げ、水気を切ったら炊飯に入れて水を加えて30分程置いてからスイッチを入れる。
- ②粒あんを6個に丸める。
- ③炊きあがったもち米は10分程蒸らし、塩を加えてすりこぎで少し粒が残るくらいに潰していき、6個に丸める。
- ④③のもち米を芯にして②のあんで包んで完成。

3月18日は春のお彼岸です。春のお彼岸と言えば「ぼた餅」ですね。お彼岸の定番とも言えるぼた餅ですが「ぼた餅とおはぎって何が違うのか？」と疑問に思われた事ありませんか？一般的には春に作るものは「ぼた餅」、秋に作るものは「おはぎ」と言われていますが、それぞれ由来が違います。

諸説ありますがぼた餅は正しくは「牡丹餅」と言い、あんをつけた姿が牡丹の花のようだからと美しい表現に見立てたものと言われています。その反対にその姿が“ぼたぼた”した感じがするから「ぼた餅」と名付けられたという説もあります。また、おはぎもぼた餅と同様に秋のお彼岸に咲く萩の花に見立てたことから「萩の餅」とも呼ばれています。

他にも大きさが違うといった説(ぼた餅は牡丹をイメージして大きめに作り、おはぎは萩をイメージして小さく作る)や作り方が違うという説(ぼた餅はもち米の粒を残し、つぶしあんで包み、おはぎはもち米をつき上げて餅にしたものをこしあんで包んだもの)など様々な説があります。

これらの起源は明らかではありませんが、江戸中期には既に記録に残っています。現在は年中行事の一つとしてお彼岸に食べる習慣となっていますが、これも江戸時代から行われており、当時は近隣に配って親睦を図ることも兼ねていたようです。

こんなぼた餅ですが、今年は手作りしてご先祖さまの供養と共に、ご近所様と親睦を図ってみてはいかがでしょうか。

健康について

3病棟 介護福祉士 主任 戸 蔭 健 治



年齢を重ねるにつれ健康について考えることが増えてきます。健康には、肉体的な健康と精神的な健康とがあるとします。

肉体的な健康には、運動不足や不摂生な生活が影響していると思います。

毎日職場の往復時に少し工夫して、歩いたり自転車を利用したり、身近に簡単なことから始めると良いと思うのですが、なかなか出来ていないのが現状です。

人間とは、やすきに流されやすい生き物でつい車を使ってしまう。

規則正しい生活は体に良いことを知っていながら、忙しさにかまけて夜更かしをしたり、不規則な食事の摂り方をしてしまい、このことが運動不足に拍車をかけているように思います。見事に悪循環が出来上がってしまう。

では精神的な健康はどうかと考えてみると、現代はストレス社会であり、職場でも家庭でもそれなりのストレスを感じるようになってきているようである。人間関係によるもの、経済問題によるもの、老後のことなどである。

特に影響が大きいのは人間関係であると思いますが、寛容さや包容力を持てればよいのですが、そう簡単には持て

ないのが現実で、しかし、少し見方を変えて、相手の長所を見ていく努力をしてみたり、適度な距離を取りながら付き合ってみるのもひとつの方法ではないでしょうか。

経済問題によるストレスは人間特有のもので、動物たちは、お金を1円も儲けることは出来ません。そして、お金は天から降ってくるわけでもありません。しかし、ある書によれば、この世の中では、世間様から見て、お役に立つ仕事をしていれば、それなりの経済的な報酬が与えられるようになっているとのことです。人の役に立つ仕事を常に心がけ、多くの人の笑顔や幸福な姿、そのことを喜びとすることが大事とのことです。

老後の心配で最も大きいものは、死の恐怖であると言えます。しかし、宗教ではこのことについて、ある程度の方法や方向性を示しています。

しかし、何事も程度の問題で、やり過ぎは良くありません。規則正しい生活と、適度な運動を心がけ、正しく深い信仰心を持ち、日々感謝の気持ちで、明るい生活を心掛けることが大切であると教えられています。

私自身、このことを肝に銘じ精進して、心と体の健康に気をつけて行きたいと考えています。

在宅サービス部門だより

ホームヘルプステーション ヴォーリス

所長 田村 真理



喀痰吸引が出来る事業所として登録してもうすぐ一年目をむかえます。

在宅ヘルパーとしては、当ステーションが初めてと言う事で、当初は「需要があるのか?」「看護師さんが行なう事をヘルパーが行なって家族さんが心配では?」等々不安がいっぱいの中、スタートをしました。

痰の吸引や注入の必要な利用者さんは、24時間家族の見守りが必要で、家族さんの負担も大きくなります。そこを、資格を習得したヘルパーが入ることで家族さんの負担を少しでも軽減できるようにと、日々頑張っ

ています。

何もかもが初めてのことで、家族さん、主治医、訪問看護師さん、ケアマネージャーの協力を得て、現在2名の利用者さんに訪問、3月からもう一人と、利用者さんが増えてきています。

現時点では、2人しか有資格者がおらず、利用者さんの希望どおりには、サービス提供出来ていませんが、今後は有資格者を増やし重症の利用者さんにも、家族さんにも安心して在宅生活が送れるように、少しでもお手伝いできればと考えています。

報告1

第109回 創立記念式

健診室 室長 大南 真人



平成26年2月1日(土)、近江兄弟社学園ヴォーリス平和礼拝堂にて、第109回創立記念式があり出席させて頂きました。

第1部記念礼拝として、賛美歌、聖書、祈祷、奨励、頌栄、祝福

第2部創立記念式では、株式会社近江兄弟社 代表取締役社長 山村徹氏による挨拶、学校法人近江兄弟社学園理事長 池田健夫氏によるメッセージを頂き、各法人の年間の報告発表がありました。



ウィリアム・メレル・ヴォーリス召天50周年記念講演

平成26年2月1日(土)、創立記念式に引き続き、ウィリアム・メレル・ヴォーリス召天50周年記念講演がありました。一般の方を含めて、平和礼拝堂の席は満席に近い出席となりました。

講師として浜 矩子先生による『未来につながるキリスト教精神』の内容にて、講演会は50分の短い時間でしたが、笑いあいのユーモアたっぷりの内容で、あっという間に過ぎていきました。

浜 矩子先生のご紹介を少しさせていただきます。

1975年一橋大学経済学部卒業。1975年三菱総合研究所入社。1990年から98年まで、同社初代英国駐在員事務所長兼駐在エコノミストとしてロンドン勤務。

帰国後、三菱総合研究所経済調査部長、同社政策・経済研究センター主席研究員を務め、経済動向に関するコメンテーターとして内外メディアに執筆や出演を行っている。

2002年秋より同志社大学大学院ビジネス研究科教授に就任され、週1度京都に通い教鞭をとり、2011年には同志社大学大学院ビジネス研究科長に就任。2012年から財務省の財政制度等審議会臨時委員を務め、金融庁金融審議会委員、国税庁国税審査会委員、経済産業省産業構造審議会特殊貿易措置小委員会委員など歴任されています。

最後は、公益財団法人近江兄弟社理事長 周防正史氏による挨拶にて、記念講演を終了となりました。

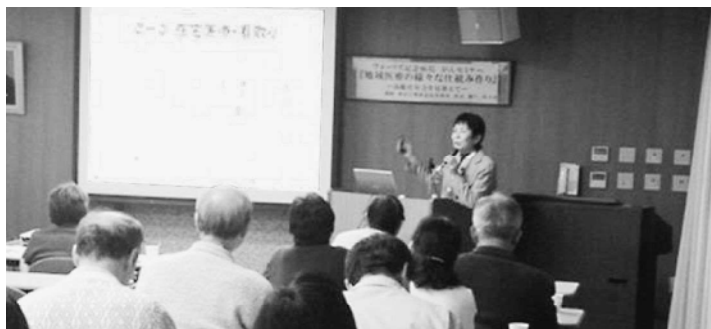


報告2

2013年度「がんセミナー」開催

さる1月18日、2013年度「がんセミナー」第1回をケアハウス「信愛館」に於いて開催いたしました。第1回目は東近江健康福祉事務所所長の瀬戸昌子さんをお迎えして「地域医療の様々な仕組み作り～高齢化を見据えて～」と題して近江八幡市を含む東近江圏で現在展開に向けての説明、またがんをはじめ高齢化に伴う病気の治療や介護、看護について行政や病院が協力して安心できる体制作りに取り組んでいることなどお話ししました。

地域の病院、大学病院、救急病院などの連携を深めることでがんに限らず治療、ケアを統一した流れで受けられるような仕組み作りがこの地域でも展開されています。



報告3

個人情報保護対策研修会に参加して

医事課 係長 河瀬 ゆかり



先日、「個人情報保護法とプライバシーの権利」について藪本恭明先生よりお話ししていただきました。個人情報保護法がなかった時代に慣れている私たちにとって、この法律は不便で大変だという思いしかありませんでした。

しかし最近はネットなどで、自分たちが知らないうちに個人の情報が流出し、第3者に知られてしまう時代になり、自分のプライバシーを守る権利に必要なものだとつくづく感じさせられました。

昔、私の母が入院している時、誰にも教えていない病室に近所の方がお見舞いに来られたことがありました。そのとき母がボソッと「知られたくなかった・・・」といった言葉が私の記憶から蘇って来ました。本人の想いが守れなかった時代です。

研修では、たとえ親族であっても本人の同意がなければ情報を伝えることが出来ない。公的機関からの依頼であっても、慎重に対応しなければいけないことを学びました。

複雑な時代、対応に四苦八苦することもあるかと思います。

今、私たち病院の職員としてできることは、患者さんの個人情報を預かっているという責任と、患者さんの想いを守ること。自分が患者さん立場なら・・・

常に患者さんの目線で考えて判断することが必要だと感じた研修でした。

報告4

ひこっと研究会に参加して

2病棟 ケアワーカー主任 東 森 一 穂



湖東圏域の、大腿骨頸部・転支部骨折地域連携パス合同会議を「ひこっと研究会」として、現状報告や各病院の取り組みの発表会などをされています。

彦根市立・近江温泉・神崎中央・豊里病院が参加されており、医師・看護師・リハビリスタッフ・MSWと、多職種が集まる場になっています。

今回初めて参加させて頂き、ヴォーリズ記念病院の回復期リハ病棟が取り組んでいる「遊びリテーション」を中心とした日々のレクリエーション活動について発表の場を頂きました。

「遊びリテーション」を取り入れた経緯や実施方法を紹介し、患者様の反応やその時の様子など写真も入れてお話ししてもらい、生活の中で楽しみながら体を動かす、意識せずにリハビリが出来るという事の大切さと、効果の大きさ、そして多職種との連携にとっても有効であることを伝えさせて頂きました。

普段、当たり前に行っていたレクリエーション行事や日課が、こうしてまとめて発表する事で、とても大切な関わりのひとつであるという振り返りができ、そこに携わっているという事をとても誇りに感じる事が出来ました。

又、発表後、他院のスタッフに遊びリテーションや病棟行事の内容・実施方法について、いろいろとご質問を頂き、興味を示して下さいたり、共感して下さいたりした事を、とても嬉しく感じました。

この想いを忘れず、仲間と共に更により良い活動に繋げていきたいと思っています。

初めは発表することに対して、不安や負担感もありましたが、この機会を与えて下さった事に今はとても感謝しています。ありがとうございました。

退院アンケート

ご報告

2013年10月～12月分



I、対象患者

アンケート回答者： 74名

病棟別

1病棟	2病棟	3病棟	ホスピス	無記	合計
53	11	1	9		74
72%	15%	1%	12%	0%	

II、年齢分布

20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	100代	無記
	3	3	5	14	17	25	3		4
0%	4%	4%	7%	19%	23%	34%	4%	0%	5%

III、＜看護師の働きについて＞良いとおもわれたことがありましたらお書き下さい。

- ・ただ感謝です。
- ・細々としたことによく気づいてくれた。何でも言える雰囲気を作ってくれた。
- ・調子が悪い時には、時間をかけてしっかり対応してくれた。
- ・きっちり説明したうえで処置していただき安心した。
- ・色々なことを気軽に話できて楽しかったです。
- ・優しく親身になってお世話になりました。
- ・気軽に話しかけてもらえたので良かったです。
- ・家族の者の体調まで気遣って頂きありがたかったです。
- ・毎日感動を覚える接し方でお礼申し上げます。
- ・何でも相談できてよかったです。
- ・（退院後の生活について）はっきりと伝えてくださりこれからの勉強になりました。

IV、その他気にかかることがありましたらお書き下さい。

- ・他の看護師が他の患者に「後で伺います」と言ってその後、来なかった。
- ・（病院関係者との表現）の言葉の伝え違い、言い間違いが度々見受けられる。
- ・ドアの開け閉めで大きい音が非常に気になる。ドアの開閉に心してほしい。
- ・（誰かは不明）病室の近くで大声でしゃべる。たむろしてはいけない。大きな音がする。心してほしい。
- ・点滴がよくもれてしまったこと。
- ・対応がよくない。ワーカーはよい。頼みにくい。
- ・若い看護師の教育が必要
- ・お膳の引き上げが少し早すぎだと思います。
- ・交代時の連絡がうまくいっていないように感じた。
- ・担当される看護師が毎日交代されるため、誰が受け持ちかがやや不明
- ・病室内の温度調整ができることを初日に説明して頂けると嬉しかったです。
- ・ほとんどの人がよかったが、一部は？
- ・看護師の引継ぎで少し残念なことがあった。



VI、病棟看護師の働きでよかったこと

- ・今後の生活について色々気にくださったこともあり、看護師の方々には感謝したい。
- ・とても笑顔が嬉しかったです。
- ・とても居心地よく安静がとれました。
- ・お世話になった看護師さん全員が最低限の仕事をやるのではなく親身になって見てくださいました。
- ・皆さん親切です。宗教の心を体得されているのかなと感じます。ある病院とは精神が全然違う。
- ・しんどい時に「しんどいなあ、かわいそうになあ」と声をかけて下さって安心してた。



- ・視線を合わせて対応してくれてうれしかった。
- ・たいへんていねいに心配り頂き、快適に過ごせました。
- ・絵本を貸して下さって久々にゆっくり読む機会となつてよかったです。絵本って奥深いな、と思いました。
- ・足のマッサージやアロマなど安心することができました。
- ・優しく接して下さり気持ちがとても楽になりました。

◇気になったこと

- ・看護師の人数が少ないのではないかな？
- ・（2病棟）患者に対する周知徹底事項については全員が集まる食事時間に責任者が直接お話し下されば全員に周知徹底できると思います。

VII、看護助手について、ケアワーカーについて

- ・日曜、祝日の人数が少ないと思います。
- ・丁寧に対応してくださった。
- ・元気なあいさつ良かったです。
- ・「ありがとう」「どういたしまして」の返答に感謝の気持ち一杯に。一方「はいよー」の返答はあまり感じがよくありませんでした。
- ・退院の朝お風呂を勧める心遣いとても嬉しく思いました。
- ・手術が長くなったのですが、待つのは仕方がないのですがある看護助手の一言に心が傷つきました。
- ・習字や手芸をさせていただきうれしゅうございました。
- ・看護師の名札がブーブブするのはなんとかならないかな。
- ・優しく声をかけていただき、いろいろお世話頂き感謝しています。
- ・とても明るい対応でした。
- ・（寝たきりもののひがみだと思いますが＜本人を指す＞）意識のある方はナースコールを何度も押し呼ばれますが、こちらは用のあるときだけで少し淋しく感じました。
- ・若い方が多くおられるので良い人生勉強になるのではと思います。
- ・常に親切をモットーに接していただきました。
- ・笑顔で接して下さって感謝です。
- ・お話している時に肩をチョンチョンタッチして下さったことがあって何かちょっと嬉しかったです。

VIII、医師について

- 長崎医師： ただ感謝申し上げます。
毎日ですが丁寧に対応、治療してもらい感謝です。
誠意をこめて親切に丁寧に対応していただき感謝しています。
- 平野医師： 私の質問をよく聞いてくださいましたので嬉しかったです。
おだやかに優しく説明されたので安心しました。
ご説明の主旨がよくわかりました。
先生の手術の説明には安心しました。
- 藤田医師： とても親切でなごやかな雰囲気でした。
本当によい先生です。
非常に懇切丁寧で感銘の至りでした。
親しみやすく話しやすかったです。
- 福永医師： 満足しています。
時間外にもかかわらず出勤して下さり親切に頂きました。

- 周防医師： 毎日来てくださって安心できた。
そのつどきちっと対処していただいたので満足しています。
自分の気持ちをよく理解して下さったと思います。
気軽に挨拶していただき、アットホームな雰囲気でよいと思う。
本当に満足しています。安心しています。
- 穂山医師： （入院時の1度だけお話）退院の事前に一度くらいはお話をお聞きしたかった。
- 細井医師： 患者の気持ちになって接して下さりありがとうございました。
午前、午後と何回も診察して頂きよかったです。
悩みなど話している時、目線が近い(同じ)なので落ち着きます。
- 川上医師： 細かく説明頂きました。
丁寧に対応していただきうれしかった。

IX、他の職員について

<リハビリ>

- ・ 素晴らしい先生方でした。
- ・ 患者の全般のことについて肉親以上に配慮して頂き、誠に適切なアドバイスを頂き深く感謝しております。
- ・ 終わって「ありがとうございました」と言って頂きました。ありがとう、は私の方です。

<地域連携室>

- ・ 親身になって考えてくださいました。
- ・ 親切以上の説明と指導に充分満足しました。
- ・ 看護職員の方と分け隔てなく活動して頂き、患者にとって誠に心強い存在でありました。
- ・ 院内ですべての部門の横の連絡が完璧ですごいと思いました。

<薬剤師>

- ・ 何回も親切に説明して頂き、感謝しています。
- ・ はっきりと信用できる方でした。

<検査技師>

- ・ 親身です。言葉遣いが大変良い。
- ・ 胃カメラの技師さんは検査中何を聞いても答えがなく終わって異常なしの一言でしたが、患者にとっては一層不安が募る思いでした。

<栄養士><調理師>

- ・ 初めて頂いた昼食ごはんが柔らかく、消化を心配して下さったと嬉しかったです。
- ・ 色々とお気遣いよく伝わってきます。
- ・ 三度の食事が美味しかった。適温、適量、適時、栄養のバランスがとれていました。
- ・ パンのほか、ごはん（おむすび）がほしかった。
- ・ 食事の量を食べやすい量に調節して下さったことがよかったです。

<チャプレン>

- ・ サナニュースを楽しみに読ませていただきました。

<清掃員>

- ・ 良く行き届いていました。いつもきれいにしてくれている。
- ・ たくさんのおへやを気持ちよくして下さってありがとうございました。
- ・ 満足しました。

<売店>

- ・ 親身になって相談を聞いて頂けてよかったです。
- ・ 祝日、日曜日に利用できない。

<ボランティア>

- ・ ティータイムはありがたいです。他の病院にはないです。

<その他、よかったこと>

- ・ ヴォーリス記念病院以外の病院にお世話になろうとは思いません。近江八幡に来てよかったな、とつくづく思います。
- ・ 自宅よりも近いですし、このような病院があることはしあわせです。よろしくお願いします。
- ・ 院内全部門の方から挨拶を励行され見習うことが多かったのです。
- ・ すべて完璧な病院でした。
- ・ (ホスピス)フレンドブックの来訪が嬉しかったです。



- ・ さあ、退院、となりますと多くの皆様のご厚情がうれしくて涙で顔がよれます。ありがとうございました。
- ・ 介護士さま、裏山の紅葉に間近まで連れて行ってくださいました。久しぶりに外気に触れてとても気持ちがよくなりました。真っ赤に紅葉したもみじの枝を折っていただきました。又どんぐりも拾って手のひらに一杯のせて頂きました。お忙しい介護士にもかわらず本当に有難うございました。部屋に帰り童謡「どんぐりころころ」を口ずさみました。

<その他、要望>

- ・ 検査結果がわかり次第知らせしてほしい。
- ・ 夜中の大声が気になりました。
- ・ 大部屋は人と人とのおつきあいが難しい。仕方ない。
- ・ 患者個々が良識ある行動が必要と思われる。

<課題>

- 施設：・ 全体的に狭く感じられる。
- ・ バリアフリー設備については不十分な部分があると思った。
 - ・ 工事音も気になりませんでした。
 - ・ 静かでとても眺めよく堪能しました。
 - ・ 天井が気になる。（換気扇など）ほこりが多い。
 - ・ 病室の近くに物入れを置くのはアンバランス。場所を変えてほしい。
 - ・ 静かな病室に入れてほしい。
 - ・ 夜中、がたがたと木をたたく音が気になった。
 - ・ 病室の壁紙が汚い。
 - ・ 部屋の湿度が低いことが少し気になりました。

XI、総合的な満足度

0%	10%	25%	30%	40%	50%	60%	75%	80%	90%	100%	無回答
					2		20	7	18	21	6
0%	0%	0%	0%	0%	3%	0%	27%	9%	24%	28%	8%

平均満足度 79%

* 退院アンケートに御協力いただきありがとうございました。貴重なご意見、感想等を頂き 深く感謝申し上げます。ご不明なところ また改善の必要な箇所等につきましては、関係者と検討致しまして ご回答させていただきます。

ヴォーリス記念病院 院長 周防正史

報告5 第210回 ミュージックタイム

さる2014年1月25日、「第210回 ミュージックタイム」を3病棟で開催いたしました。

今回はプロのシンガーソングライターとして活躍されている「まいこ」さんをお迎えしました。今年で4回目。お琴を奏でながら澄みとおる歌声は皆さんの心に響きました。当日はお誕生日を迎えられた方もおられ素敵な誕生日プレゼントになりました。



働く仲間を募集しています！

★看護師・訪問看護師・介護福祉士

“ケアの喜びを一緒に
感じませんか。”



詳細はお問い合わせ下さい。TEL 0748-32-5211 (担当：澤谷)

【新規採用】



2月 3日 樋口 加奈子(看護師)

2月10日 石井 直子(ケアマネ)

お知らせ

▶ 糖尿病及び生活習慣病教室のお知らせ

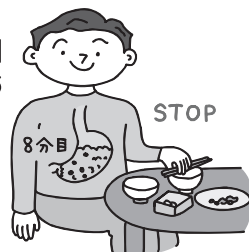
シリーズで月に一度、木曜日に糖尿病、生活習慣病に関して、実際の食事をご用意し、病気の知識や治療法に関する教室を開きます。詳しくは管理栄養士か外来看護師あるいは担当医師にお聞きください。

日 時 3月27日(木)12:00～13:30

場 所 新館研修室(病院内)

講 師 理学療法士

主治医の指示のもとに参加できますが、あらかじめお申し込みが必要です。



近江八幡市介護予防拠点事業

ヴォーリス介護予防教室のご案内(平成26年度前期)

回	月 日	担 当	内 容 (仮)	講師予定
1	5月22日(木)	在宅サービス部門	「認知症にならないために」	滋賀八幡病院 心理療法士・精神保健福祉士 谷川 香織 氏
2	7月24日(木)	ヴォーリス記念病院	「筋力アップの簡単体操①」	メディカルフィットネスセンターヴォーリス 久保 大志 氏
3	9月25日(木)	ヴォーリス老健センター	「折り紙教室」	ヴォーリス老健センター 施設長 鈴木 輝康 氏

①対象者 おおむね65歳以上の方 定員：30名

②場 所 アンドリュース記念館(旧YMC A会館) 近江八幡市為心町中31番地(近江八幡教会の隣)

③参加費 無料

④申し込み 1回目5月20日(火)までに往復ハガキで①住所 ②氏名 ③年齢 ④連絡先電話を記入の上、下記の係りまでお申し込み下さい。(申し込み締め切り2回目7月22日、3回目9月22日)

〒523-0806 近江八幡市北之庄町492 ヴォーリス記念病院内 介護予防教室 係 まで
お問い合わせは、ヴォーリス記念病院内

ホームヘルプステーション 担当 生駒 (Tel 32-7130 Fax 36-5458)まで

メディカルフィットネスセンター

会 員 募 集

あなたの健康づくりをサポート

安心して楽しく運動して頂けるよう、からだの状態を評価し、お一人お一人の運動メニューを提供致します。

受付時間 9:30～17:00

利用時間

月・水・木・土/ 9:30～17:00

火・金/ 9:30～20:00

定休日 日曜日・その他(年末年始など)

近江八幡市鷹飼町571

平和堂近江八幡店5階内

TEL 0748-32-5540

地域連携課

介護・入院・施設の入所等で、
お困りのことがあり
ましたら、お気軽に
お越しください。

正面玄関入って
左側です。



“患者サポート支援窓口”の設置

外来診療・入院生活・治療等についてお困りのことがございましたら
患者サポート支援窓口までご連絡下さい。

(担当 塚本・岡田・加藤)